



県は9日、認知症者を介護する家族らに掲げてもらう「介護マーク」を全国で初めて作成すると発表した。増加傾向にある男性介護者が付き添いで女性用トイレに入る際や、下着を購入する際の誤解の解消などに生かしてもらおう。

県長寿政策局の宮城島 見し「高齢化で認知症者 介護マークを全国に広げていきたい」と述べた。

県は2009年7月、認知症者を介護する家族らでつくる「認知症の人と家族の会県支部」からマーク作成の要望を受けた。静岡デザイン専門学校にマークのデザインを依頼し、提出された30案の中から家族の会の意見を聞いて決定。茶の緑色とミカンのオレンジ色を取り入れ、「介護中」の文字を両手で支えるデザインとなっている。

3万枚用意して4月以降、市町と県内123カ所の地域包括支援センターで配布する。チラシやポスターも作成し、スーパーや病院、銀行などに掲示し、マークに対する県民の認知度を高める。

会見には認知症の人と家族の会県支部の佐野三四子代表を含む会員6人が同席。7年前から認知症の妻を介護し、マークを提案した島田市の小泉欽市さん(67)はトイレでの苦労話などを交え、「7年前は家族の会の中に男

県、全国へ普及目指す

認知症介護マーク作成

性会員はいなかった。男性が増えた今は、皆が同じ悩みを抱いている」と話した。

県内の要介護認定者は10年11月末現在で13万2942人で、約6割の約8万人が認知症者。介護者のうち男性の割合は23%(07年)で、「11」数年大きく伸びている(同局)という。